

～平成23年度保育の振り返り（自己評価）から～ 教諭6名

計画（Plan）、実践（Do）、評価（Check）、改善（Action）という一連の流れを繰り返しながら、開かれた園運営の中で、より良い保育を目指し、保育の質の向上を図ることを目的として実施しました。この評価は、保育の出来、不出来ではなく、項目ごとに自分の保育を振り返ることで、一つずつの活動や行事の一連を深く見つめることができたと思います。そして誰もが組織の一人として、園の運営に関わっている大切な人材であるということを確認したと思います。さらには、反省点から自分を見つめ、園全体の良好な人間関係（同僚、保護者等）の和も見出すことができました。一年の振り返りが次年度に向けての出発として、より良い保育に繋げていける自己評価の活用に使いたいと思います。

☆ 指導計画の作成及び保育内容において

今年度は保育内容の5領域に添って、園の指導計画や年間計画を作成する上で、子どもの実態を深く掘り下げて考える機会となりました。特に同じ項目であっても、学年ごとのねらいや達成度も異なることから、学年ごとでの見通しをもった保育計画の立案の必要性や、季節感を考慮した保育環境改善にも見直しの必要を感じました。

☆ 保護者との対応において

保護者アンケートを実施したところ、100%の回収率を得ました。このことから、一人ひとりが園に向けている教育への関心度と、その熱い我が児への思いを受け止めることができました。結果は公表し、気づきや質問等の保護者の声と直接対応し、理解を得ることができました。

☆ 特別支援教育において

現在、特別支援教育を必要としている子はおりませんが、必要に応じて研修会等に参加したり、専門書を読むなど、研修の場を広く求めるようにしています。また、そうした学びは、共通の知識として皆が知り得る必要がありますので、情報の共有をし、お互いが理解を図れるよう資料等を提供し、個々の学習に繋げています。